



ひとりぼっち ゼロ PROJECT

ニュース No.72
2025.5.1



2月24日(月祝)
兵庫県立中央労働センター

～映画「星に語りて」上映会を開催しました～

この作品はきょうされんが40周年を記念して制作した映画で、東日本大震災の障害者と支援者の活動が描かれており、阪神・淡路大震災から30年目となる今年に是非皆さんと一緒に観たい映画として参加を呼びかけました。災害時の障害者の状況がリアルに描かれていて困難な中でも障害者の支援に奔走する支援者の動きに知恵と力をもらった映画でした。

当日は午前・午後合わせて175人の参加がありました。

【参加者より】

「障がい者が消えた」災害時どれだけの人が障がい者や弱者に気付くでしょうか？震災時の障がい者の死亡率は全体の2倍だそうです。この映画で知った事は①障がい者は避難所に居場所がなく自宅に戻らざるを得ないこと②安否確認に個人情報保護法という正義が壁になることなど弱者とそれを支えた人々の事実に基づいて描かれた作品です。その中で発達障がいの青年が走り回り被災者から冷たい視線や言葉を浴びせられます。しかし青年のその足と記憶力で地域の困っている人に走って支援物資を届けるシーンは温かい気持ちになりました。障がい者＝怖いではなく関わって知ることが大切だと感じました。(R・S)

※プロジェクトでは年に1～2回、映画上映会を予定しています。ご希望の映画がありましたら是非ご連絡ください

旧優生保護法問題の全面解決に向けた第1回目の協議が開かれました

令和7年3月27日(金)こども家庭庁共用大会議室

この定期協議は、昨年9月に政府と被害者側(原告団・弁護団・優生連)が結んだ基本合意に盛り込まれていたものです。政府側は三原じゅん子こども家庭庁大臣をはじめ、法務省、厚労省など関係省庁からも出席がありました。

被害者側は「責任の明確化と謝罪」「補償法に基づくすべての被害者に対する補償の実現」などが盛り込まれた要請書を提出。三原大臣は「今後とも、

協議の誠実な実施を改めて誓う」と強調、各施策の具体化に向けた3つの作業部会(被害回復、人権教育・啓発、偏見差別の根絶)を設けることで合意しました。

このような協議が定期的に重ねられていくのかを見守るのは私たち国民の役目だと感じました。兵庫県でもあすてっぷ KOBE にオンライン会場が設けられ、15名の参加がありました。報告:橋詰

優生思想根絶に向けて引き続き学習・啓発活動を！

優生保護法による手術で被害を受けた全ての人に補償金や一時金の情報が届き、勇気を出して申請できるように、優生保護法に関する学習・啓発活動や映画上映会を引き続き開催し、学んだことを周りの人に広げ、人権回復の取り組みを進めましょう。

兵庫県旧優生保護法専用相談窓口

FAX:078-362-3913 電話:078-362-3439

請求手続きを弁護士が無料でサポート

する制度も始まっています

併せてご相談ください



映画『沈黙の50年』 県下各地域で上映会の 計画をしてください！

上映に関するお問合せ先

chinmoku50.m@gmail.com

PROJECTの全体会を開催します

日時:2025年5月15日(木)18:30~20:30

会場:神戸市障害者福祉センター会議室 B

内容:活動報告 会計報告 活動計画 予算

神戸長田ふくろうの杜実践報告

意見交換